

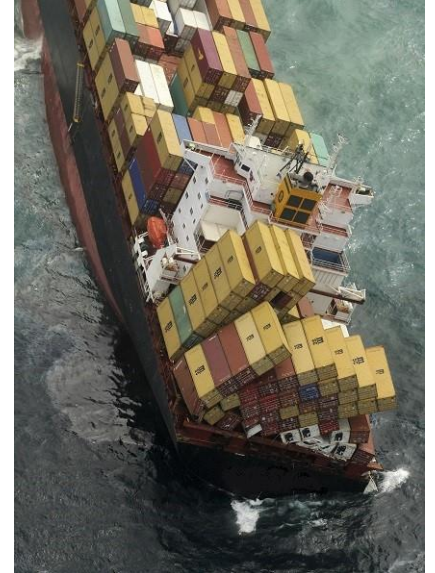
コンテナ流失事故における運送人宛求償

北半球が冬季を迎えたことで、波ざらいによる海上輸送中のコンテナ流失事故が増加するシーズンとなりました。本号では、海上コンテナ流失事故の原因と、運送人宛の損害賠償請求を見据えた留意点についてご紹介します。

1. 海上コンテナ流失事故の原因

海上輸送中の波ざらいによるコンテナ流失事故の原因は、大きく5つに分類でき、①著しい荒天、②運送人による本船上での積付不良、③荷送人による積付不良（コンテナ内の荷動きによる荷崩れ誘発等）、④コンテナ船やその設備自体の問題、⑤船舶と海況の相互作用などにより発生するといわれています。

つまり、悪天候や高波が原因となるだけでなく、コンテナに対し十分かつ適切なラッシングや設備管理がなされていなかったために、本船上での積付けがその後の航海に堪えられない状態であったケースや、コンテナ重量の誤申告、船舶の操縦ミス、船員の訓練不足など、運送人の過失が要因となる場合もあります。



(出典：AP/アフロ)

2. 海上コンテナ流失事故における、運送人宛求償を見据えた留意点

上記の通り、海上コンテナ流失事故には様々な原因が考えられますが、航海前に行われた本船上のコンテナの積付けに瑕疵があった場合など、運送人に対する損害賠償請求が認められることがあります。しかしながら、海事鑑定人（マリンサーベイヤー）であっても、事故原因を特定することはときに容易ではありません。貨物側サーベイヤーは、原因究明に繋がる乗船サーベイを含む各種設備の実調査、積付プランや航海記録等の入手について、そのアクセスが極めて限られているからです。そして運送人は、損害賠償請求交渉の過程で、著しい荒天遭遇による不可抗力など、運送契約上の免責を主張して自身の責任を否定することが多くあります。



(出典：WESTEND61/アフロ)

一方で、コンテナの流失事故のケースでは、発生後直ちに運送人から荷主に対して事故報告されることが少なくありません。高額な損害が見込まれる際には、早期にサーベイヤーに対して詳細な調査を依頼し、また、船社に対して乗船許可およびラッシング材や関連書類等、調査対象の保全、提供を要請することが重要です。

専門家の間では、2018年の英国裁判所によるVolcafe事件(*1)最高裁判決以降、運送人側が免責事由を主張するためには、自身の無過失を証明することが求められることになり、貨物側の損害賠償請求がより認められ易くなったといわれています。そのため、一見すると不可抗力によると思われるコンテナ流失事故であっても、初期段階から荷主側でできる限り情報を集め、運送人の過失が推定される場合には損害賠償請求することが勧められます。

